

午後 試験

従来に比べて、システムの視点からの論述は少なく、上級システムアドミニストレータの立場や役割に対する受験者の理解は着実に浸透してきていると見受けられた。

問 1（経営的視点からの情報システムの選択について）では、外部専門サービスも含めたシステムの選定において、経営戦略に照らして選定基準をどのように設定し、実際の選定作業を行ったか、具体的な論述を求めた。外部専門サービスの利用自体は、全体の比率から見ればまだ少数なので、自社システムの構築との比較・検討を主題にした。選択率は低かったが、比較・検討の実務を多く経験した者が選択したと思われ、選定基準が期待ほど列挙されなかった点を除き全体として論述の水準は高かった。今後の同様なケースでの改善事項については、内容や深さが不十分な論述が目立った。

問 2（ソフトウェアパッケージ利用における業務プロセスやルールの見直しについて）では、ソフトウェアパッケージの利用で想定される業務の姿とそれまで検討してきたあるべき姿との間の差異と、直面した問題に関し、業務プロセスや処理ルールの見直しなど解決内容の具体的な論述を求めた。しかし、パッケージ導入に至るまでの経緯についての論述が目立った。また、業務ではなく、システムの視点からの論述も若干見られた。カスタマイズを最小限にとどめた結果として、利用部門における対応の工夫について十分に論述してほしかった。

問 3（業務改善におけるデータ活用について）では、業務改善策を立案するに当たって、現状の問題点を的確に把握するために、どのようなデータを収集していかに活用したかという視点での論述を求めたが、データ活用の記述が乏しく、業務改善に重点を置いた論述が目立った。